

MEWNET-W2ワイヤリンク 仕様説明資料

[対象機種]

FP2 マルチワイヤリンクユニット (品種 AFP2720)

[対象ネットワーク]

MEWNET-W2

目次

1章 MEWNET-W2モード

1.1	W2モードの機能	1-2
1.1.1	PCリンク機能	1-2
1.1.2	データ転送機能	1-2
1.1.3	リモートプログラミング機能	1-2
1.2	PCリンク	1-3
1.2.1	PCリンク使用の準備	1-3
1.2.2	設定時に必要なパラメータ	1-3
1.2.3	プログラムの準備	1-4
1.2.4	サンプルプログラム	1-6

2章 資料

2.1	W2 PCリンク パラメーター一覧表	2-2
2.2	エラー情報出力レジスタ	2-9
2.2.1	エラー情報出力レジスタの構成	2-9
2.2.2	エラー情報出力レジスタの出力例	2-12
2.2.3	エラーコード一覧	2-16
2.3	異常時の確認	2-17
2.3.1	CPUユニットのERROR LEDが点灯したら	2-17
2.3.2	使用モードの確認	2-17
2.3.3	MEWNET-W2使用時の確認	2-18
2.3.4	ERR.LED点灯／点滅時の確認	2-18
2.3.5	PCリンク通信不可時の確認	2-19
2.3.6	伝送異常時の確認	2-20

1章

MEWNET-W2モード

1.1	W2モードの機能	1-2
1.1.1	PCリンク機能	1-2
1.1.2	データ転送機能	1-2
1.1.3	リモートプログラミング機能	1-2
1.2	PCリンク	1-3
1.2.1	PCリンク使用の準備	1-3
1.2.2	設定時に必要なパラメータ	1-3
1.2.3	プログラムの準備	1-4
1.2.4	サンプルプログラム	1-6

1.1 W2モードの機能

1.1.1 PCリンク機能

PCリンク機能はサイクリックに伝送されるリンクリレー/リンクレジスタを使用し、PLC間のデータ共有が手軽に行える通信機能です(使用するリレー/レジスタの種類は、ユーザープログラムにて設定可能です)。

このリンクリレー/リンクレジスタを同一システム内の各CPUユニットがどのような構成で使用するのかを設定するため、ユーザープログラムにてリンクエリア割付けを行う必要があります(1.2章参照)。

1.1.2 データ転送機能

データ転送は、同一システム内のPLC間でシーケンスプログラムによって接点及びレジスタ情報を送受信する通信機能です。F145/P145, F146/P146(シーケンス命令)を利用して相手側CPUユニットと直接データのやりとりをします。

(FPシリーズ命令語マニュアル[共通命令編]をご参照ください。)

1.1.3 リモートプログラミング機能

リモートプログラミング機能は同一システム内のPLCに対し、プログラミングツール、NPST-GRを直接接続したときと同じ操作が遠隔より行える機能です。

リンクユニットで接続されている同一システム内のPLCであれば、手近にあるPLCからプログラミング機能を使用して他のPLCのプログラミング操作、各接点及びレジスタのモニタなどの操作が可能です。

1.2 PCリンク

1.2.1 PCリンク使用の準備

W2モードでPCリンクを使用する場合、ユーザプログラムにより通信パラメータを設定する必要があります。

注意：

- ▶パラメータ設定プログラムをRUNモードで実行しなければ設定された内容で動作しません。
- ▶設定された内容は、電源OFF時にクリアされますのでご注意ください。
- ▶設定はリンク上の全てのユニット、それぞれ個別に行ってください。
- ▶PCリンクを使用しない場合は、これらパラメータの設定は必要ありません。

1.2.2 設定時に必要なパラメータ

以下に示すマップ表の内容を全て設定する必要があります。マップアドレスNo.はW2のパラメータ設定用アドレスに対応するNo.です。パラメータコードの詳細は「2.1章 W2 PCリンクパラメータ一覧表」を参考にしてください。


マップアドレスNo.	パラメータコード
0	W2モード使用の宣言(固定値)
1 ┆ 7	(H0000 固定)
8 ┆ 10	動作状態フラグの設定 各局の動作状態、各局の運転状態、各局の異常情報など、モニタ出力用の領域を確保します。このフラグを利用し、PCリンクで繋がっている各PLCの状態が監視できます。
11 ┆ 13	エラー情報出力レジスタの設定 発生したエラーの内容を確認するためのレジスタ領域の確保を行います。
14 ┆ 16	リンクリレーの設定 PCリンクに使用するリレーの種類と、全使用領域の確保を行います。
17 ┆ 19	リンクレジスタの設定 PCリンクに使用するレジスタの種類と、全使用領域の確保を行います。
20	リンクコードの指定(固定値)
21	(H0000 固定)
22 ┆ 25	実施局の設定 PCリンクを行う実施局の指定を行います(No.1~No.64局)。
26 ┆ 29	(H0000 固定)
30 ┆ 31	PCリンク断時、リレー/レジスタクリア設定 PCリンク断時に他局送信エリアのリンクリレー/レジスタの内容をクリアするか否かの設定を行います。
32 ┆ 33	重複エラーチェック設定 PCリンク断時にリンクリレー/レジスタの重複エラーチェックをするか否かの設定を行います。
34 ┆ 289	送信領域割り当て設定 各局に割り当てられる使用リレー/レジスタの送信領域の設定を行います(No.1~No.64局)。
1023	PCリンク起動スイッチ マップへの設定内容の書き込み許可/不許可の切替を行います。

1.2.3 プログラムの準備


● W2モード、PCリンク動作フローチャート

プログラム動作は以下のような流れで行われています。PCリンクモードでのプログラムはRUNになった時、下記動作が行われるようにプログラムをしてください。

1. ユニットの準備

- ・マルチワイヤリンクユニットをW2モードに設定(モード設定スイッチ)。
 - ・ユニットの起動(電源ON)。
 - ・CPUユニットをRUNモードに設定。
- 

2. パラメータ設定プログラムの実行(次項参照)

- ・マップパラメータの設定。
PCリンク通信に必要なリンクリレー/レジスタの割り付けなどの設定を行います。
- 

3. ユーザプログラムの実行

- ・目的の仕様に合わせ、プログラムを作成してください。

● パラメータ設定プログラム、フローチャート

左記フローチャートの「2.パラメータ設定プログラムの実行」は以下のような流れで行ってください。

1. マップ(共有メモリ)への書き込み準備

・ワークエリアの初期化。
全エリアにH0000を書き込み(ただし、リンクリレー、リンクレジスタ送信領域にはHFFFFを書き込みます)

2. W2モード パラメータ書き込み許可

・使用するルートNo.の指定、W2パラメータ転送の宣言。
・SEND命令にてPCリンク動作停止、マップアドレスへの書き込み許可を設定。
(マップアドレスNo.1023にH0000を転送)

3. パラメータ設定内容の準備

・マップパラメータの設定(詳細は2.1章を参照してください)。
以下のパラメータをワークエリアに格納します。

- パラメータコードの設定
- 動作状態フラグ、エラー情報出力レジスタの設定
- リレー/レジスタ使用領域の設定
- リンクコードの設定
- 実施局の設定
- PCリンク断時、リレー/レジスタクリアの設定
- リンクリレー/レジスタ、重複エラーチェックの設定
- リンクリレー/レジスタ、送信領域割り当ての設定

4. 設定内容の転送

・手順3にて設定した内容を、SEND命令にてマルチワイヤリンクユニットのマップへ転送します。

5. W2 PCリンクの起動

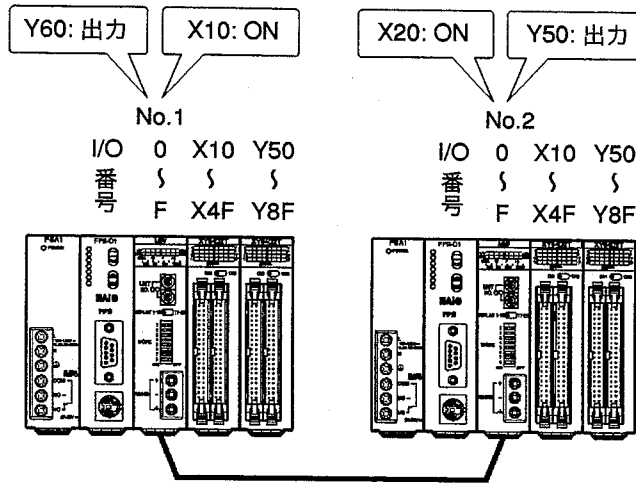
・SEND命令にてPCリンク動作起動(マップアドレスNo.1023にH0001を転送)。

注意：

- ▶上記手順5が終了するまで、PCリンクは起動せずリンクリレー/レジスタの内容は反映されません。
- ▶パラメータ設定プログラムが終了する前に、ワークエリアの内容が書き変わらないようご注意ください。

1.2.4 サンプルプログラム

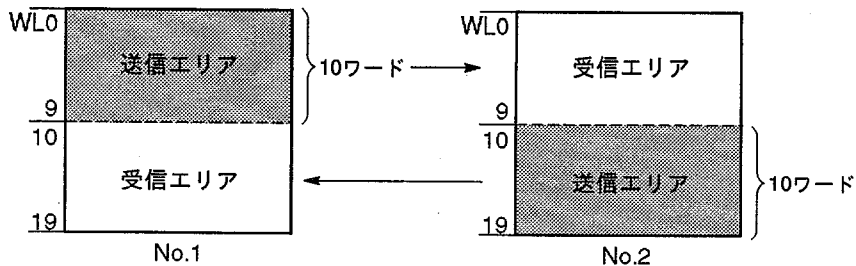
例1) ユニットNo.1側で入力X10がONした時、ユニットNo.2側より出力Y50が出力。
また、ユニットNo.2側で入力X20がONした時、ユニットNo.1側より出力Y60が出力。



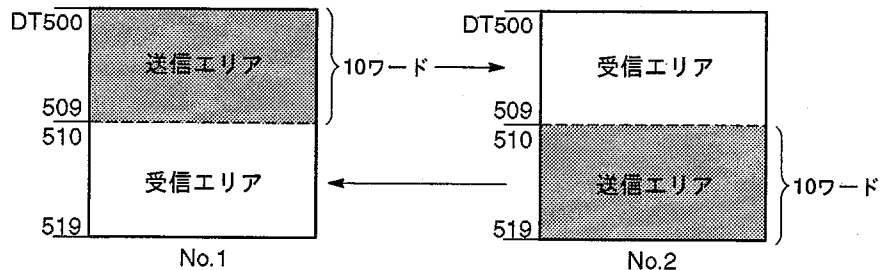
【条件】

項目	設定
PCリンク実施局	No.1、2
動作状況フラグ	WR使用(WR20~WR22、3ワード)
エラー情報出力レジスタ	LD使用(LD10~LD19、10ワード)
リンクリレー/レジスタ割り付け	下図
PCリンク断時リレー/レジスタ	クリアしない
アドレス重複エラー	チェックする

● リンクリレー



● リンクレジスタ



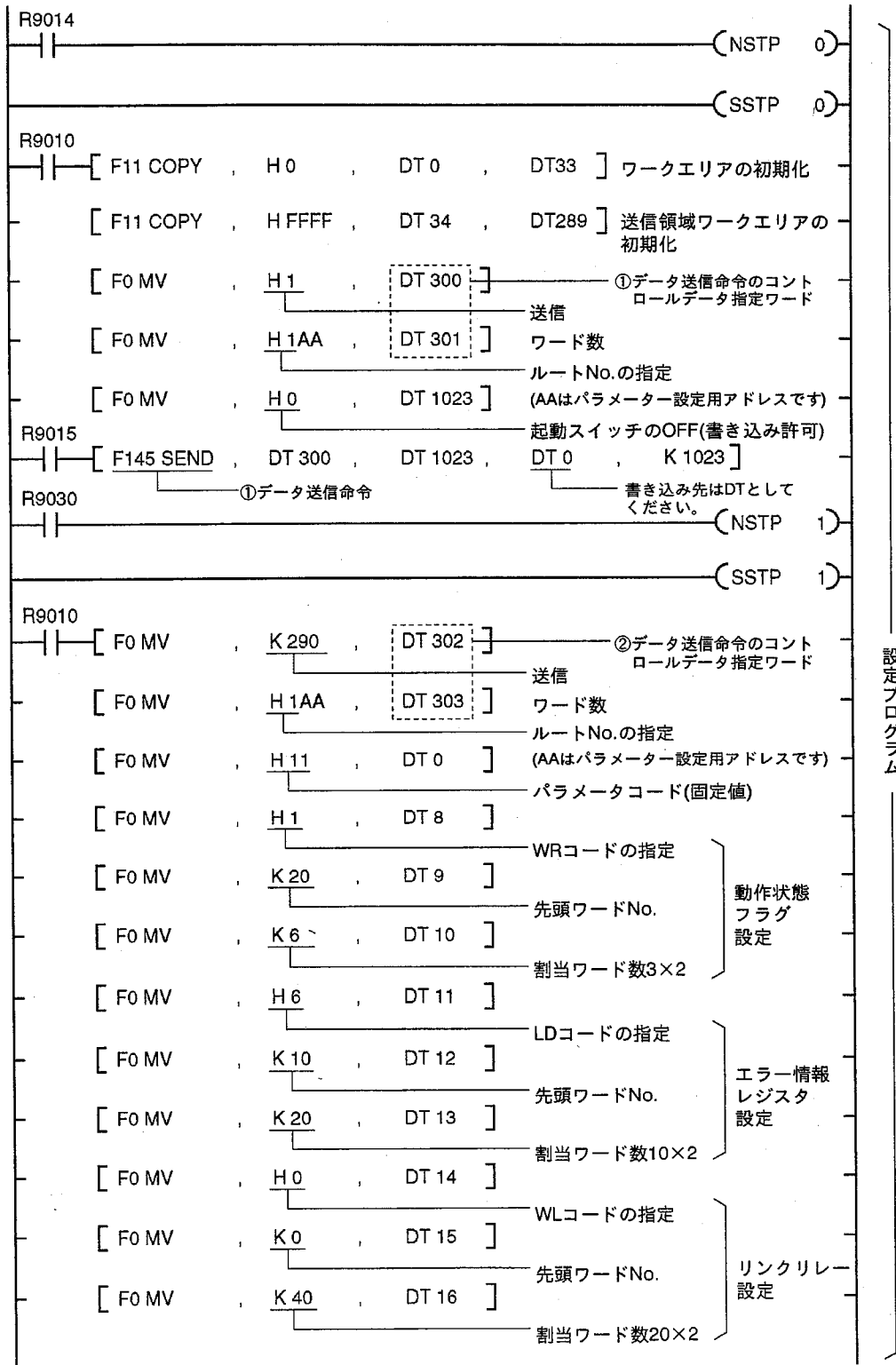
▶ 本プログラム例ではパラメータ設定用ワークエリアとして、DT0~DT289および、DT290以降を使用しています。DT0~DT289にはそれぞれのパラメータの転送先(マルチワイヤリンクユニット)のアドレスに対応させています。また、これらのワークエリアはSEND命令実行後に自由に使用可となります。SEND命令については、「FPシリーズ命令語マニュアル 共通編」(ARCT1F295)をご参照ください。

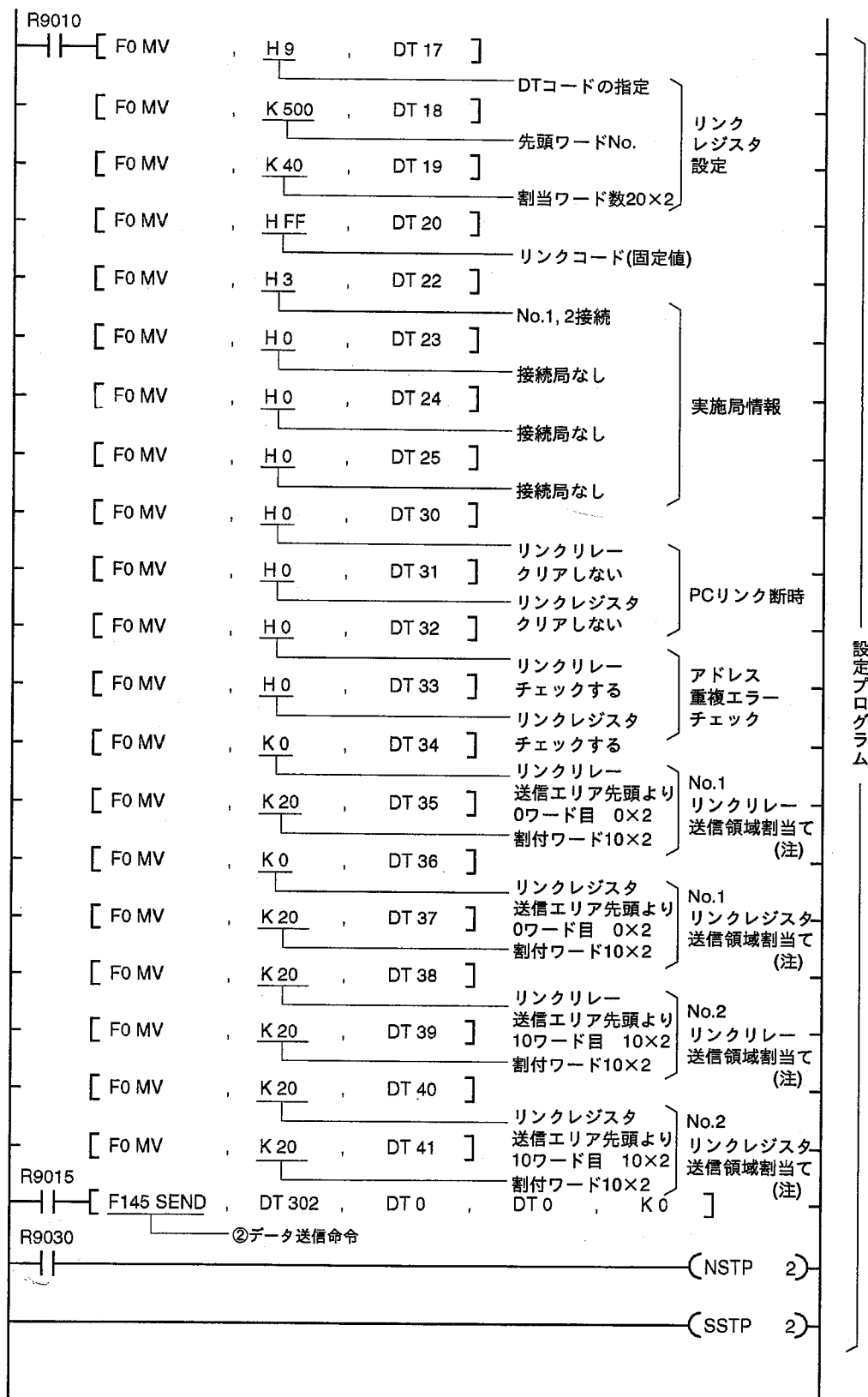
▶ パラメータ設定終了後(SEND命令実行後)まで、PCリンクは起動せずリンクリレー/リンクレジスタの内容は反映されません。

▶ MEWNET-Wと併用する場合、Wリンクのリンクリレー/リンクレジスタと重複しないようご注意ください。

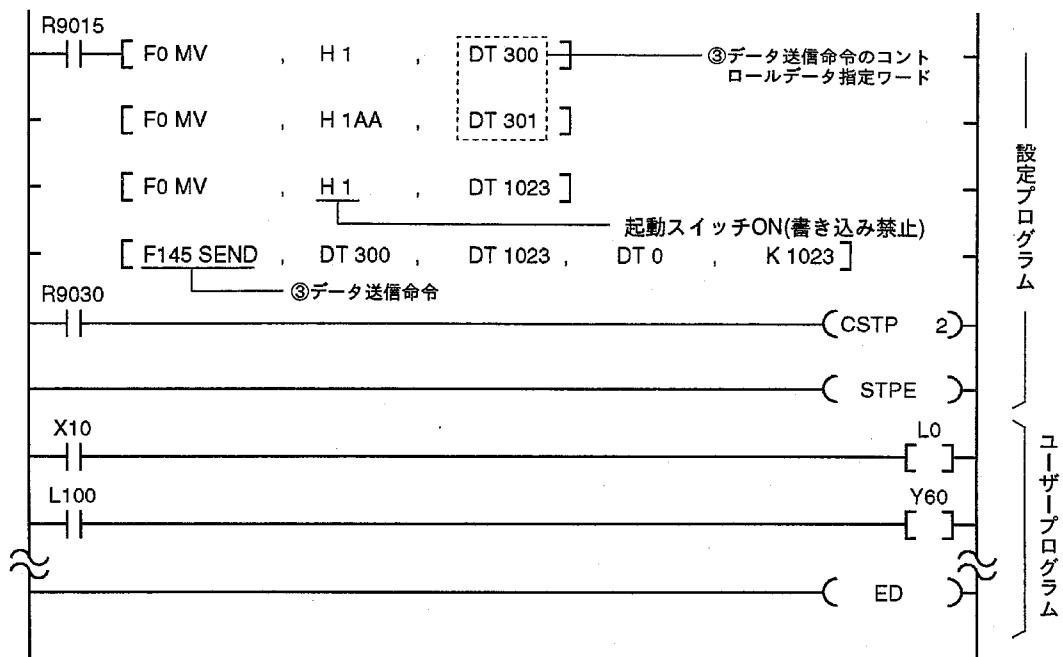
■ プログラム例

● ユニットNo.1側プログラム

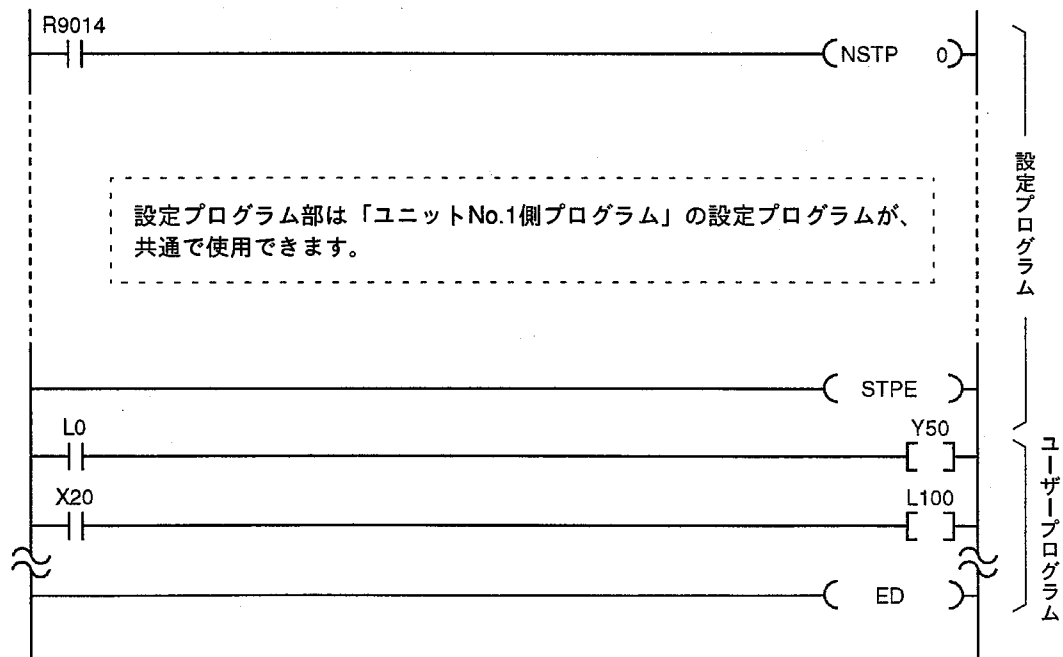




注) リンクリレー/レジスタの送信領域割り当てについては「2.1章 W2 PCリンクパラメーター一覧表」、リンクリレー/レジスタの送信領域割り付けの設定(マップアドレスNo.34~289)を参照してください。

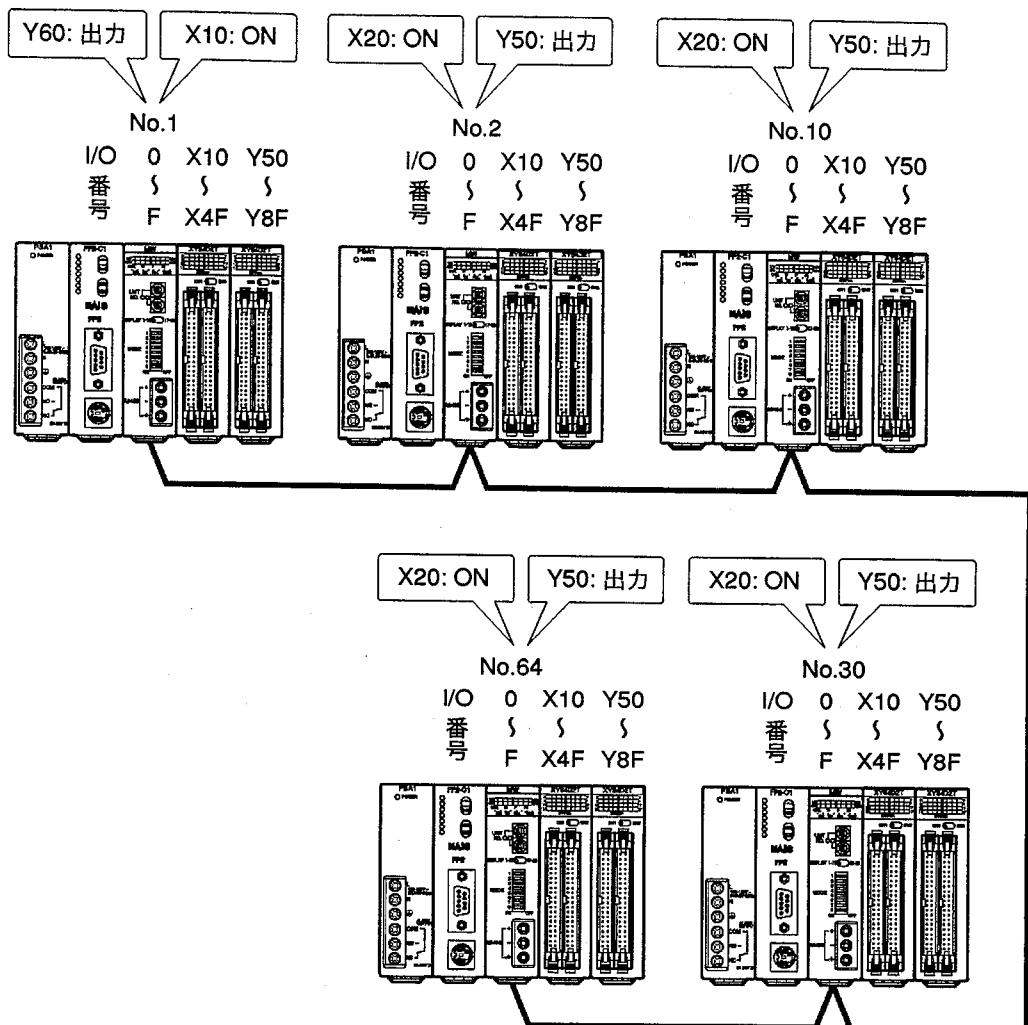


● ユニットNo.2側プログラム



▶ PCリンクを行うユニット全てに対し、それぞれのユニットのプログラム(設定プログラム)にてパラメータ設定を行う必要があります。

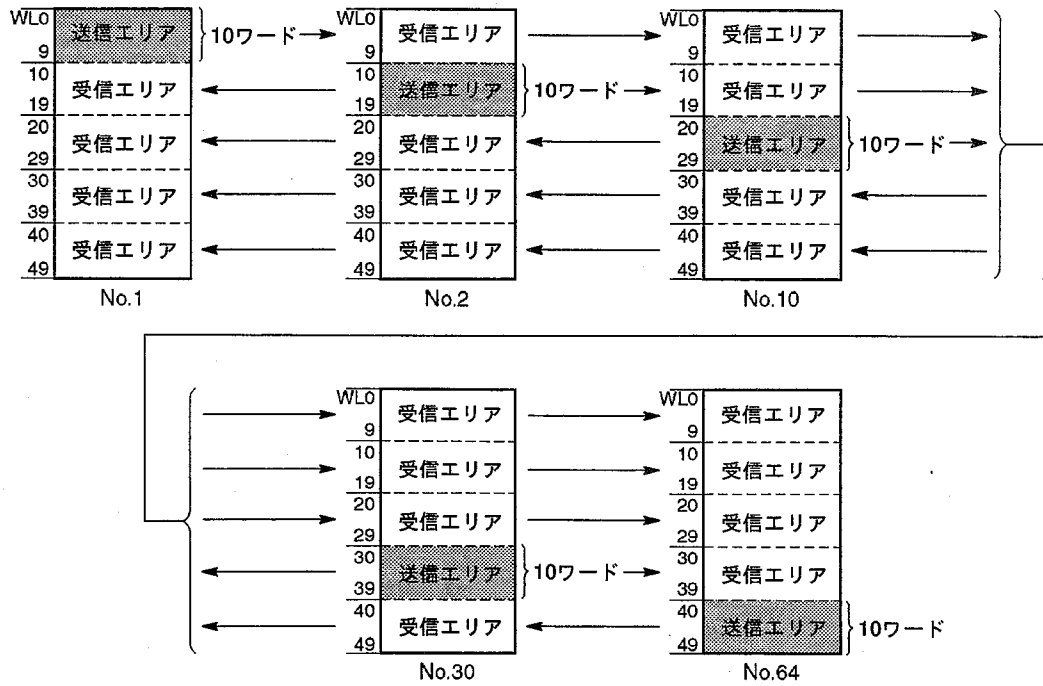
例2) ユニットNo.1側で入力X10がONした時、ユニットNo.2, 10, 30, 64側より出力Y50が出力。また、ユニットNo.2, 10, 30, 64側で入力X20がONした時、ユニットNo.1側より出力Y60が出力。



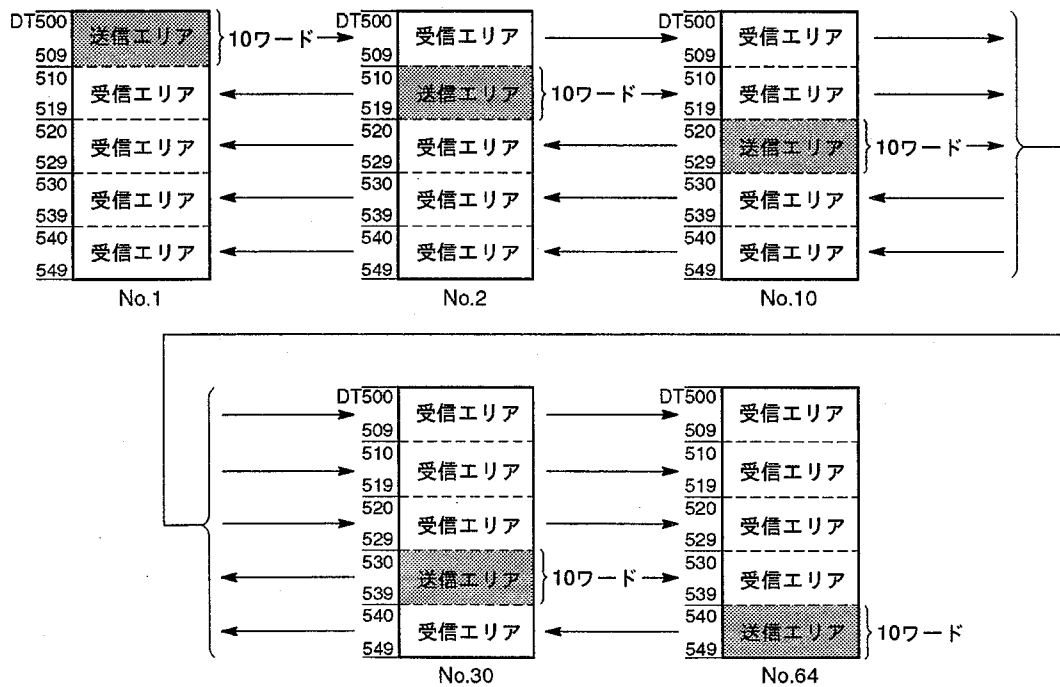
【条件】

項目	設定
PCリンク実施局	No.1、2、10、30、64
動作状況フラグ	WR使用(WR20～WR25、12ワード)
エラー情報出力レジスタ	LD使用(LD0～LD9、10ワード)
リンクリレー/レジスタ割り付け	下図
PCリンク断時リレー/レジスタ	クリアしない
アドレス重複エラー	チェックする

● リンクリレー



● リンクレジスタ



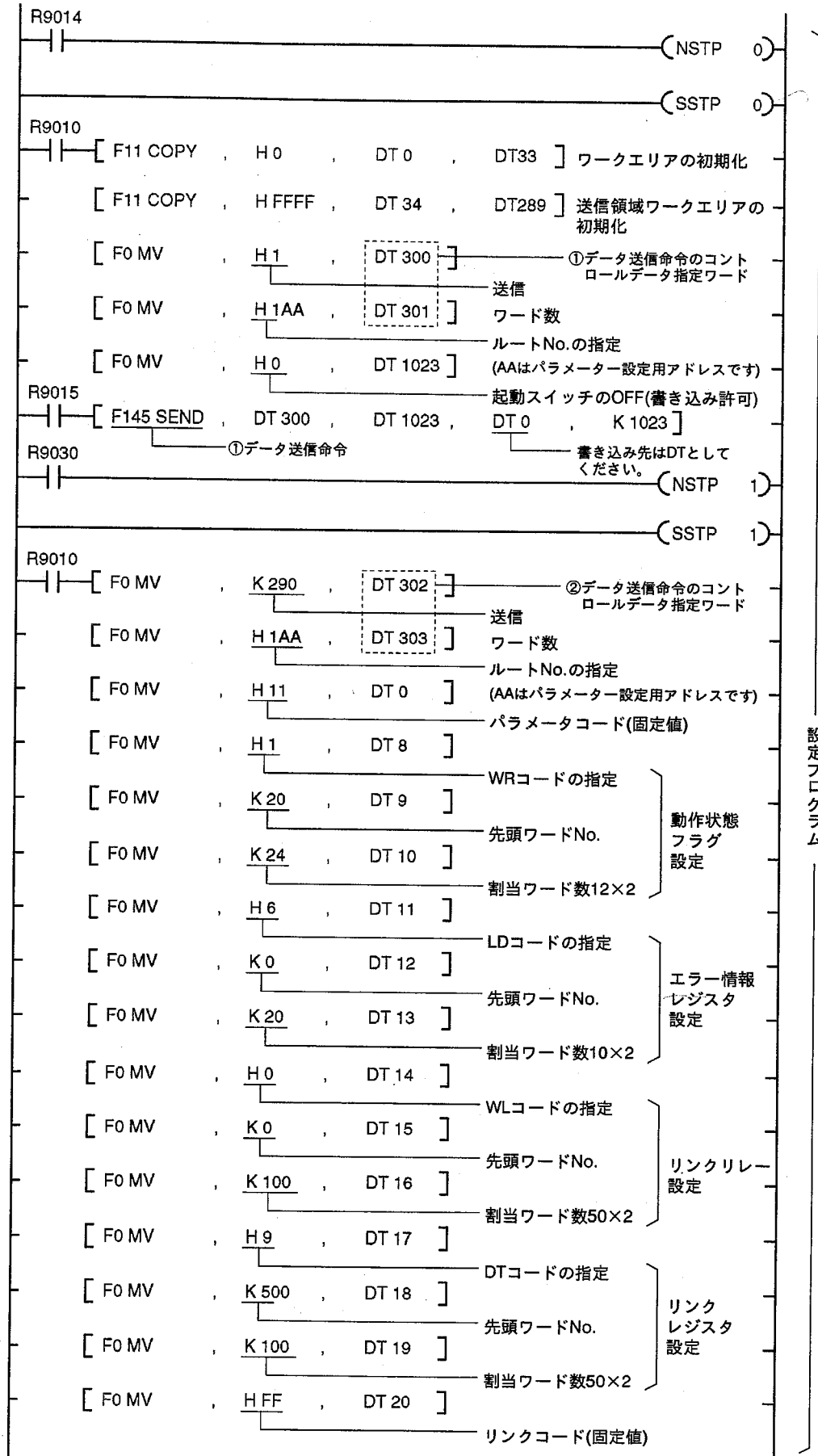
▶ 本プログラム例ではパラメータ設定用ワークエリアとして、DT0~DT289および、DT290以降を使用しています。DT0~DT289にはそれぞれのパラメータの転送先(マルチワイヤリンクユニット)のアドレスに対応させています。また、これらのワークエリアはSEND命令実行後に自由に使用可となります。SEND命令については、「FPシリーズ命令語マニュアル 共通編」(ARCT1F295)をご参照ください。

▶ パラメータ設定終了後(SEND命令実行後)まで、PCリンクは起動せずリンクリレー/リンクレジスタの内容は反映されません。

▶ MEWNET-Wと併用する場合、Wリンクのリンクリレー/リンクレジスタと重複しないようご注意ください。

■ プログラム例

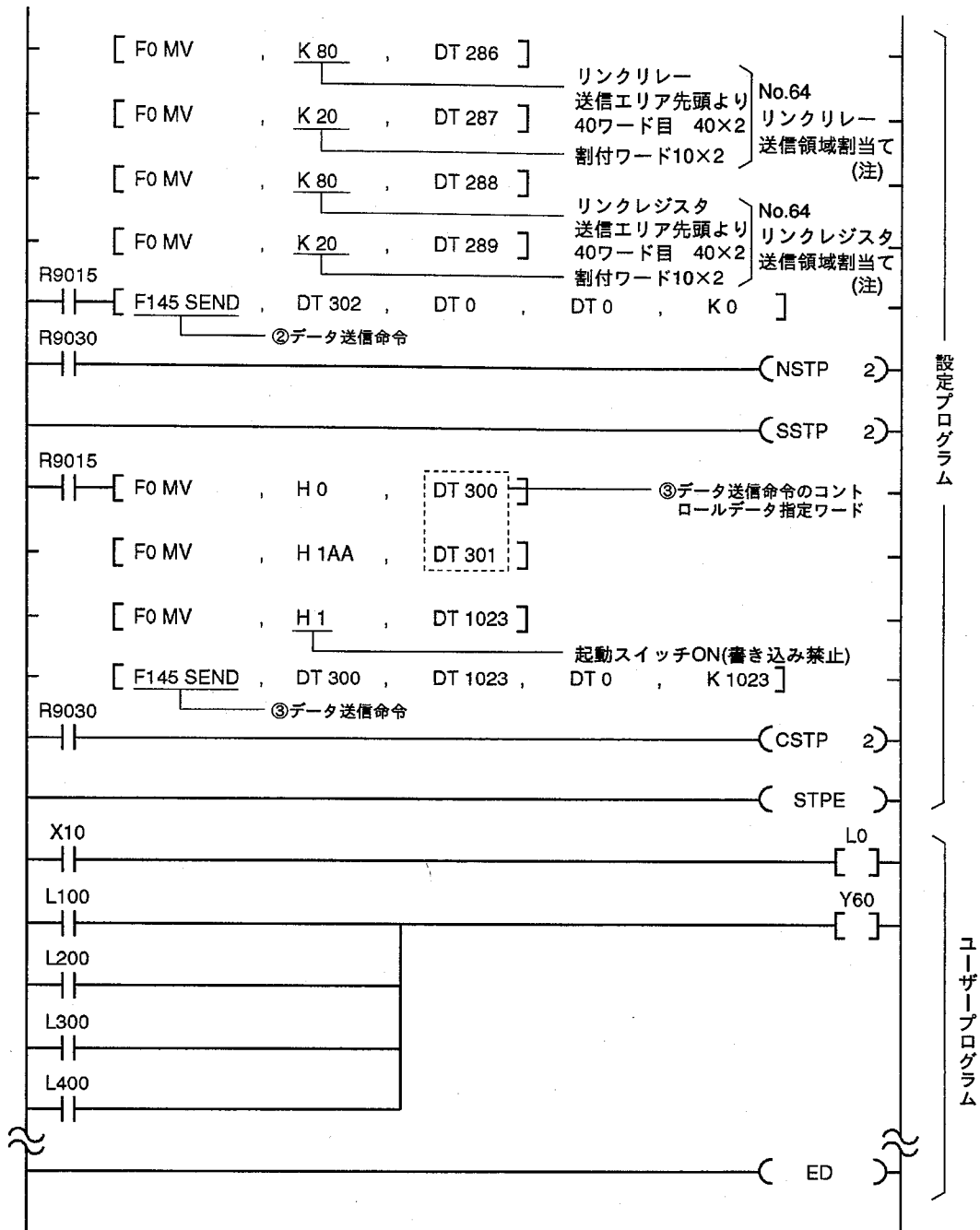
● ユニットNo.1側プログラム



R9010					
[F0 MV	H 203	DT 22	No.1, 2, 10接続	実施局情報	
[F0 MV	H 2000	DT 23	No.30接続		
[F0 MV	H 0	DT 24	接続局なし		
[F0 MV	H 8000	DT 25	No.64接続		
[F0 MV	H 0	DT 30			
[F0 MV	H 0	DT 31	リンクリレー クリアしない	PCリンク断時	
[F0 MV	H 0	DT 32	リンクレジスタ クリアしない		
[F0 MV	H 0	DT 33	リンクリレー チェックする	アドレス 重複エラー チェック	
[F0 MV	K 0	DT 34	リンクレジスタ チェックする		
[F0 MV	K 20	DT 35	リンクリレー 送信エリア先頭より 0ワード目 0×2 割付ワード10×2	No.1 リンクリレー 送信領域割当て (注)	
[F0 MV	K 0	DT 36		No.1 リンクレジスタ 送信領域割当て (注)	
[F0 MV	K 20	DT 37	リンクレジスタ 送信エリア先頭より 0ワード目 0×2 割付ワード10×2		
[F0 MV	K 20	DT 38		No.2 リンクリレー 送信領域割当て (注)	
[F0 MV	K 20	DT 39	リンクリレー 送信エリア先頭より 10ワード目 10×2 割付ワード10×2		
[F0 MV	K 20	DT 40		No.2 リンクレジスタ 送信領域割当て (注)	
[F0 MV	K 20	DT 41	リンクレジスタ 送信エリア先頭より 10ワード目 10×2 割付ワード10×2		
[F0 MV	K 40	DT 70		No.10 リンクリレー 送信領域割当て (注)	
[F0 MV	K 20	DT 71	リンクリレー 送信エリア先頭より 20ワード目 20×2 割付ワード10×2		
[F0 MV	K 40	DT 72		No.10 リンクレジスタ 送信領域割当て (注)	
[F0 MV	K 20	DT 73	リンクレジスタ 送信エリア先頭より 20ワード目 20×2 割付ワード10×2		
[F0 MV	K 60	DT 150		No.30 リンクリレー 送信領域割当て (注)	
[F0 MV	K 20	DT 151	リンクリレー 送信エリア先頭より 30ワード目 30×2 割付ワード10×2		
[F0 MV	K 60	DT 152		No.30 リンクレジスタ 送信領域割当て (注)	
[F0 MV	K 20	DT 153	リンクレジスタ 送信エリア先頭より 30ワード目 30×2 割付ワード10×2		

設定プログラム

注) リンクリレー/レジスタの送信領域割り当てについては「2.1章 W2 PCリンクパラメーター一覧表」、リンクリレー/レジスタの送信領域割り付けの設定(マップアドレスNo.34~289)を参照してください。



- ▶ PCリンクを行うユニット全てに対し、それぞれのユニットのプログラム(設定プログラム)にてパラメータ設定を行う必要があります(本例ではNo.1、2、10、30、64)。
- ▶ ユニットNo.2、10、30、64のパラメータ設定プログラムは、ユニットNo.1と共通の物が使用できます。

注) リンクリレー/レジスタの送信領域割り当てについては「2.1章 W2 PCリンクパラメーター一覧表」、リンクリレー/レジスタの送信領域割り付けの設定(マップアドレスNo.34～289)を参照してください。

2章

資料

2.1	W2 PCリンク パラメーター一覧表	2-2
2.2	エラー情報出力レジスタ	2-9
2.2.1	エラー情報出力レジスタの構成	2-9
2.2.2	エラー情報出力レジスタの出力例	2-12
2.2.3	エラーコード一覧	2-16
2.3	異常時の確認	2-17
2.3.1	CPUユニットのERROR LEDが点灯したら	2-17
2.3.2	使用モードの確認	2-17
2.3.3	MEWNET-W2使用時の確認	2-18
2.3.4	ERR.LED点灯／点滅時の確認	2-18
2.3.5	PCリンク通信不可時の確認	2-19
2.3.6	伝送異常時の確認	2-20

2.1 W2 PCリンク パラメータ一覧表

マップ アドレスNo.	パラメータ	内容															
0	パラメータコード	H0011固定															
1 ~ 7	未使用	H0000固定															
8	動作状態フラグの設定 (各局の通信状態、運転状態、異常状態を監視する領域の設定を行います。PCリンクで繋がっている各局のステータス監視に使用できます。)	動作状態フラグで使用するリレー/レジスタを指定します。表1のリレー/レジスタが指定可能です。 表1. リンクリレー/レジスタコード <table border="1"> <thead> <tr> <th>リレー/レジスタ</th> <th>コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WL</td> <td>H0000</td> </tr> <tr> <td>WR</td> <td>H0001</td> </tr> <tr> <td>LD</td> <td>H0006</td> </tr> <tr> <td>DT</td> <td>H0009</td> </tr> <tr> <td>FL</td> <td>H000A</td> </tr> </tbody> </table>	リレー/レジスタ	コード	WL	H0000	WR	H0001	LD	H0006	DT	H0009	FL	H000A			
リレー/レジスタ		コード															
WL	H0000																
WR	H0001																
LD	H0006																
DT	H0009																
FL	H000A																
9	先頭ワードNo.	使用領域の先頭ワードNo.を指定します。															
10	領域ワード数 <small>バイト</small>	PCリンクで使用している接続局に合わせ、表2の指定コードを格納してください。 表2. 領域ワード数コード <small>バイト</small> <table border="1"> <thead> <tr> <th>接続局No.</th> <th>使用領域ワード数</th> <th>指定コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No.1~16</td> <td>3ワード</td> <td>K6</td> </tr> <tr> <td>No.1~32</td> <td>6ワード</td> <td>K12</td> </tr> <tr> <td>No.1~48</td> <td>9ワード</td> <td>K18</td> </tr> <tr> <td>No.1~64</td> <td>12ワード</td> <td>K24</td> </tr> </tbody> </table> 指定コードの詳細については、P2-6をご参照ください。	接続局No.	使用領域ワード数	指定コード	No.1~16	3ワード	K6	No.1~32	6ワード	K12	No.1~48	9ワード	K18	No.1~64	12ワード	K24
接続局No.	使用領域ワード数	指定コード															
No.1~16	3ワード	K6															
No.1~32	6ワード	K12															
No.1~48	9ワード	K18															
No.1~64	12ワード	K24															
11	エラー情報出力レジスタの設定 (エラー内容及び、エラー履歴を出力するためのレジスタ領域の設定を行います。エラー内容を示すエラーコード等の詳細は、2.2エラー情報出力レジスタをご参照ください。)	エラー情報出力レジスタで使用するリレー/レジスタを指定します。表1のリレー/レジスタが指定可能です。 表1. リンクリレー/レジスタコード <table border="1"> <thead> <tr> <th>リレー/レジスタ</th> <th>コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WL</td> <td>H0000</td> </tr> <tr> <td>WR</td> <td>H0001</td> </tr> <tr> <td>LD</td> <td>H0006</td> </tr> <tr> <td>DT</td> <td>H0009</td> </tr> <tr> <td>FL</td> <td>H000A</td> </tr> </tbody> </table>	リレー/レジスタ	コード	WL	H0000	WR	H0001	LD	H0006	DT	H0009	FL	H000A			
リレー/レジスタ		コード															
WL		H0000															
WR	H0001																
LD	H0006																
DT	H0009																
FL	H000A																
12	先頭ワードNo.	使用領域の先頭ワードNo.を指定します。															
13	領域ワード数	固定値K20(10ワード分を占有します。)(エラーレジスタを使用しない場合、パラメータはH0000(K0)を入力してください。)															
14	リンクリレーの設定	表1を使用し、使用コードを指定します。 表1. リンクリレー/レジスタコード <table border="1"> <thead> <tr> <th>リレー/レジスタ</th> <th>使用コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WL</td> <td>H0000</td> </tr> <tr> <td>WR</td> <td>H0001</td> </tr> <tr> <td>LD</td> <td>H0006</td> </tr> <tr> <td>DT</td> <td>H0009</td> </tr> <tr> <td>FL</td> <td>H000A</td> </tr> </tbody> </table>	リレー/レジスタ	使用コード	WL	H0000	WR	H0001	LD	H0006	DT	H0009	FL	H000A			
リレー/レジスタ		使用コード															
WL		H0000															
WR	H0001																
LD	H0006																
DT	H0009																
FL	H000A																
15	先頭ワードNo.	リンクリレーの先頭アドレスNo.を指定します。															
16	領域ワード数 <small>バイト</small>	リンクリレーの使用領域を指定します。所望ワード数の2倍値を指定してください。(例: 50ワードの領域を確保→K100) <small>バイト</small>															

マップ アドレスNo.	パラメータ		内容																
17	リンクレジスタ の設定	領域コード	表1を使用し、使用コードを指定します。 表1. リンクリレー/レジスタコード <table border="1"> <thead> <tr> <th>リレー/レジスタ</th> <th>使用コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WL</td> <td>H0000</td> </tr> <tr> <td>WR</td> <td>H0001</td> </tr> <tr> <td>LD</td> <td>H0006</td> </tr> <tr> <td>DT</td> <td>H0009</td> </tr> <tr> <td>FL</td> <td>H000A</td> </tr> </tbody> </table>	リレー/レジスタ	使用コード	WL	H0000	WR	H0001	LD	H0006	DT	H0009	FL	H000A				
リレー/レジスタ		使用コード																	
WL		H0000																	
WR	H0001																		
LD	H0006																		
DT	H0009																		
FL	H000A																		
18	先頭ワードNo.	リンクレジスタの先頭アドレスを指定します。																	
19	ビット 領域ワード数	リンクレジスタの使用領域を指定します。 所望ワード数の2倍値を指定してください。 (例: 50ワードの領域を確保→K100)																	
20	リンクコード	H00FF固定																	
21	未使用	H0000固定																	
22	実施局の設定 (PCリンク接続される局 の指定を行います。 (No.1~64が接続可能) 表のNo.に対応するbit をONしてください。 注意: 使用できる局番は1~ 64ですが、実際にPCリ ンク接続できる子局数 は最大32台までです。	実施局 1~16局	bit 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 ユニット No. <table border="1"><tr><td>16</td><td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td>6</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr></table>	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
16		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1			
23		実施局 17~32局	bit 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 ユニット No. <table border="1"><tr><td>32</td><td>31</td><td>30</td><td>29</td><td>28</td><td>27</td><td>26</td><td>25</td><td>24</td><td>23</td><td>22</td><td>21</td><td>20</td><td>19</td><td>18</td><td>17</td></tr></table>	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17
32		31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17			
24	実施局 33~48局	bit 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 ユニット No. <table border="1"><tr><td>48</td><td>47</td><td>46</td><td>45</td><td>44</td><td>43</td><td>42</td><td>41</td><td>40</td><td>39</td><td>38</td><td>37</td><td>36</td><td>35</td><td>34</td><td>33</td></tr></table>	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	
48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33				
25	実施局 49~64局	bit 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 ユニット No. <table border="1"><tr><td>64</td><td>63</td><td>62</td><td>61</td><td>60</td><td>59</td><td>58</td><td>57</td><td>56</td><td>55</td><td>54</td><td>53</td><td>52</td><td>51</td><td>50</td><td>49</td></tr></table>	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	
64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49				
26 } 29	未使用		H0000固定																

続き有り(次頁へ)

■ マップアドレスNo.22~25設定例

No.1、2、10、30、64を使用する場合、以下のビットをONさせます。

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
No.22

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

 0000 0010 0000 0011 → H0203

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
No.23

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

 0010 0000 0000 0000 → H2000

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
No.24

48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

 0000 0000 0000 0000 → H0000

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
No.25

64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

 1000 0000 0000 0000 → H8000

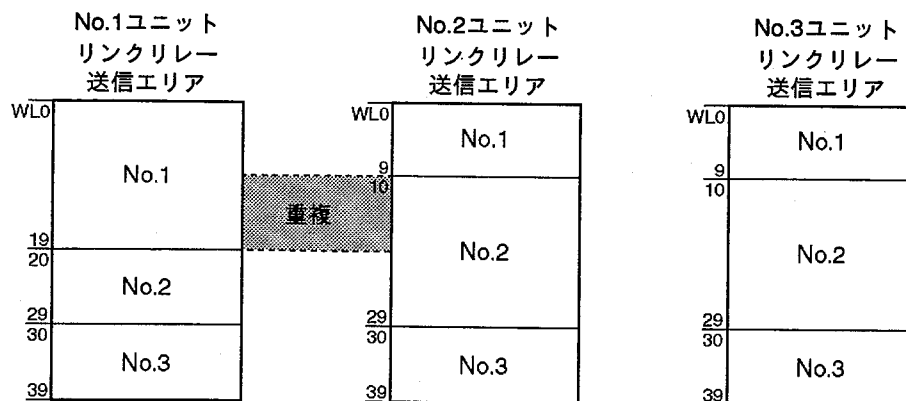
- ・ マップアドレスNo.22: H0203
 - ・ マップアドレスNo.23: H2000
 - ・ マップアドレスNo.24: H0000
 - ・ マップアドレスNo.25: H8000
- を、指定します。

マップ アドレスNo.	パラメータ		内容		
30	PCリンク 通信断時の クリア設定	リンクリレー クリア	H0000:クリアしない H0001:クリアする	PCリンク通信切断時、他局送信エリアの リンクリレー/リンクレジスタのクリアを 行うか否かの設定を行います。なおPCリンク 通信切断時とはPCリンク通信状態フラグが OFFの場合のことで、す。	
31		リンクレジスタ クリア	H0000:クリアしない H0001:クリアする		
32	重複エラー チェックの設定 (注1)	リンクリレー アドレス	H0000:チェックする H0001:チェックしない	各接続局に割り付けたリンクリレーおよび、 リンクレジスタエリアの重複の有無のチェッ クの行うか否かの設定をします。重複エラー があった場合、マルチワイヤリンクユニット のERR LEDが点滅します。	
33		リンクレジスタ アドレス	H0000:チェックする H0001:チェックしない		
34	リンクリレー/ リンクレジスタ送信 領域割り付けの設定	No.1 リンクリレー	送信先頭ワード数	リンクリレー/データ領域設定(マップアドレスNo.14~19)で指定し た接続局について、各局毎のリンクリレー及びリンクレジスタ送信 領域の割り付けを行います。マップアドレスNo.34~289に4ワード/ 1局単位でNo.1~64局まで順に格納されます。 非接続局にはすべてのエリアにHFFFFを書き込んでください。 注意： リンクリレー/リンクレジスタの送信領域の割り付けには、 先頭ワード数、領域ワード数共に所望するワード数の2倍値を 指定してください。 例 先頭ワード数10 → K20 領域ワード数20 → K40 なお、「先頭ワード数」とはマップアドレスNo.15およびNo.18 にて設定した先頭アドレスNo.からのワード数のことです (詳細は次頁を参照してください)。	
35			送信領域ワード数		
36		No.1 リンク レジスタ	送信先頭ワード数		
37			送信領域ワード数		
:			:		
34+4(n-1)		No.n リンクリレー	送信先頭ワード数		
35+4(n-1)			送信領域ワード数		
36+4(n-1)		No.n リンク レジスタ	送信先頭ワード数		
37+4(n-1)			送信領域ワード数		
:			:		
286		No.64 リンクリレー	送信先頭ワード数		
287			送信領域ワード数		
288		No.64 リンク レジスタ	送信先頭ワード数		
289			送信領域ワード数		
1023	PCリンク起動スイッチ		マップアドレスNo.0~289のパラメータの書き込みは、このスイッチ がOFF時のみ可能です。 H0000:PCリンク動作停止(パラメータ書き込み可能) H0001:PCリンク動作起動(パラメータ書き込み不可)		

注1) : 重複エラーチェックを行った場合、エラー発生時にはデータの受信はしません。エラーチェックを行わない場合、重複があっても自局のリンクエリア領域設定内容に基づきデータの受信を行います。

▶重複エラーチェックを行わない場合

下図のような割り付けを行っていた場合、No.1ユニットから送信されたデータは、No.2/No.3ユニット側ではWL0~WL9の範囲で受信し、No.2ユニットから送信されたデータは、No.1ユニット側ではWL20~WL29の範囲で受信されます(この時、重複しているWL10~WL19のデータは破棄されます)。



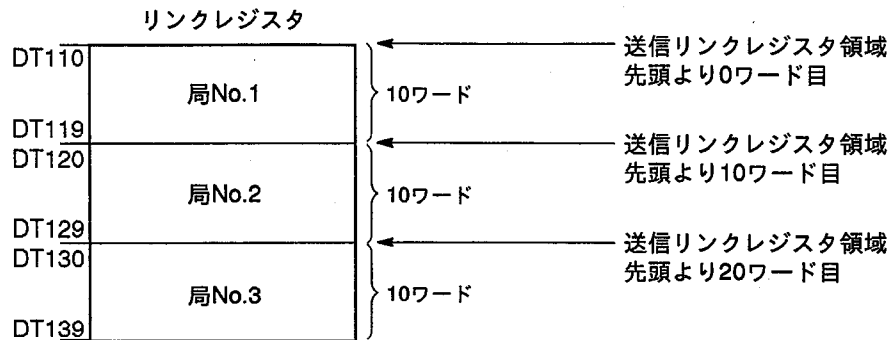
■ リンクリレー／レジスタの送信領域の割り付け

リンクリレー／レジスタの送信領域の割り付けには、先頭ワード数、領域ワード数共に、所望するワード数の2倍値を設定する必要があります。

先頭ワード数は、送信領域の先頭アドレスからのNo.となります。WL10やDT100などのワードNo.とは異なる場合がありますので、下記例を参考に割り付けを行ってください。

例) リンクレジスタDT110より、局No.1～3に10ワードずつ割り当てる場合

● 割り付けイメージ



● マップアドレス設定

所望するワード数の2倍値を設定してください。

マップ アドレスNo.	パラメータコード	設定内容
36	No.1リンクレジスタ 送信先頭ワード数	レジスタ領域の先頭なので0。 0×2 → K0
37	No.1リンクレジスタ 送信領域ワード数	10ワードの領域を確保。 10×2 → K20
40	No.2リンクレジスタ 送信先頭ワード数	レジスタ領域の先頭から10ワード目なので10。 10×2 → K20
41	No.2リンクレジスタ 送信領域ワード数	10ワードの領域を確保。 10×2 → K20
44	No.3リンクレジスタ 送信先頭ワード数	レジスタ領域の先頭から20ワード目なので20。 20×2 → K40
45	No.3リンクレジスタ 送信領域ワード数	10ワードの領域を確保。 10×2 → K20

■ 動作状態フラグについて

マップアドレスNo.8~10にて設定される動作状態フラグには、「PCリンク通信状態フラグ」、「PC運転モードフラグ」、「PC運転状態フラグ」の3つがそれぞれ全局分あります。これら3つの情報は動作フラグ設定で確保した領域に格納され、それぞれの領域を確保するにはマップアドレスNo.10にて使用する「領域ワード数(指定コード)」を指定する必要があります。指定コードは接続局No.によって変わりますので、表2を参考に指定してください(動作状態フラグの格納状態については、次頁以降の例1~3を参照してください)。

表2. 領域ワード数コード

接続局No.	使用領域ワード数	指定コード
1~16局	3ワード	K6
1~32局	6ワード	K12
1~48局	9ワード	K18
1~64局	12ワード	K24

● PCリンク通信状態フラグ

該当フラグ	状態	各局のPCリンク通信状態
自局に該当するフラグの状態	ON	自局がPCリンク正常運転中
	OFF	自局がPCリンク停止中
他局に該当するフラグの状態	ON	他局がPCリンク正常運転中
	OFF*1	他局がPCリンク停止中

*1 自局のPCリンク通信状態フラグがOFFしている場合、全フラグがOFFになります。

● PC運転モードフラグ(RUN/PROG.)

該当フラグ	状態	各局のPCリンク通信状態
自局に該当するフラグの状態	ON	自局のPCリンク通信状態フラグがONしていて、CPUユニットがRUN状態
	OFF	自局のPCリンク通信状態フラグがOFFしている、またはCPUユニットがPROG.状態
他局に該当するフラグの状態	ON	他局のPCリンク通信状態フラグがONしていて、CPUユニットがRUN状態
	OFF*1	他局のPCリンク通信状態フラグがOFFしている、またはCPUユニットがPROG.状態

*1 自局のPCリンク通信状態フラグがOFFしている場合、全フラグがOFFになります。

● PC運転状態フラグ

該当フラグ	状態	各局のPCリンク通信状態
自局に該当するフラグの状態	ON	自局のPCリンク通信状態フラグがONしていて、PCに異常がない。
	OFF	自局のPCリンク通信状態フラグがOFF、またはPCに異常が発生。
他局に該当するフラグの状態	ON	他局のPCリンク通信状態フラグがONしていて、PCに異常がない。
	OFF*1	他局のPCリンク通信状態フラグがOFF、またはPCに異常が発生。

*1 自局のPCリンク通信状態フラグがOFFしている場合、全フラグがOFFになります。

動作状態フラグ 例1)

● 条件

項目		設定
接続局		No.1、10
動作状態フラグ	使用リレー	WR
	先頭ワードNo.	50
	領域ワード数指定 (接続局No.: No.1~16内 使用領域ワード数: 3ワード)	K6

● 動作フラグ

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
 WR50 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 No.1~16局 PCリンク通信状態フラグ

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
 WR51 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 No.1~16局 PC運転モードフラグ

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
 WR52 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 No.1~16局 PC運転状態フラグ

WR50: H0201 PCリンク通信状態フラグ
 WR51: H0201 PC運転モードフラグ
 WR52: H0201 PC運転状態フラグ

が格納されています。
 (例は使用全局の全フラグON状態の場合です)

動作状態フラグ 例2)

● 条件

項目		設定
接続局		No.1、10、20
動作状態フラグ	使用リレー	WR
	先頭ワードNo.	50
	領域ワード数指定内 (接続局No.: No.1~32 使用領域ワード数: 6ワード)	K12

● 動作フラグ

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
 WR50 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 No.1~16局
 WR51 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 No.17~32局

PCリンク通信状態フラグ

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
 WR52 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 No.1~16局
 WR53 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 No.17~32局

PC運転モードフラグ

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 bit
 WR54 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 No.1~16局
 WR55 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 No.17~32局

PC運転状態フラグ

WR50: H0201 PCリンク通信状態フラグ
 WR51: H0008
 WR52: H0201 PC運転モードフラグ
 WR53: H0008
 WR54: H0201 PC運転状態フラグ
 WR55: H0008

が格納されています。
 (例は使用全局の全フラグON状態の場合です)

動作状態フラグ 例3)

● 条件

項目		設定
接続局		No.1、10、20、30、64
動作状態フラグ	使用リレー	WR
	先頭ワードNo.	50
	領域ワード数指定 (接続局No.: No.1~64内 使用領域ワード数: 12ワード)	K24

● 動作フラグ

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	bit	
WR50	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		No.1~16局
WR51	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17		No.17~32局
WR52	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33		No.33~48局
WR53	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49		No.49~64局

PCリンク通信状態フラグ

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	bit	
WR54	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		No.1~16局
WR55	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17		No.17~32局
WR56	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33		No.33~48局
WR57	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49		No.49~64局

PC運転モードフラグ

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	bit	
WR58	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		No.1~16局
WR59	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17		No.17~32局
WR60	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33		No.33~48局
WR61	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49		No.49~64局

PC運転状態フラグ

- WR50: H0201
 - WR51: H2008
 - WR52: H0000
 - WR53: H8000
- PCリンク通信状態フラグ
- WR54: H0201
 - WR55: H2008
 - WR56: H0000
 - WR57: H8000
- PC運転モードフラグ
- WR58: H0201
 - WR59: H2008
 - WR60: H0000
 - WR61: H8000
- PC運転状態フラグ

が格納されています。
(例は使用全局の全フラグON状態の場合です)

2.2 エラー情報出力レジスタ

2.2.1 エラー情報出力レジスタの構成

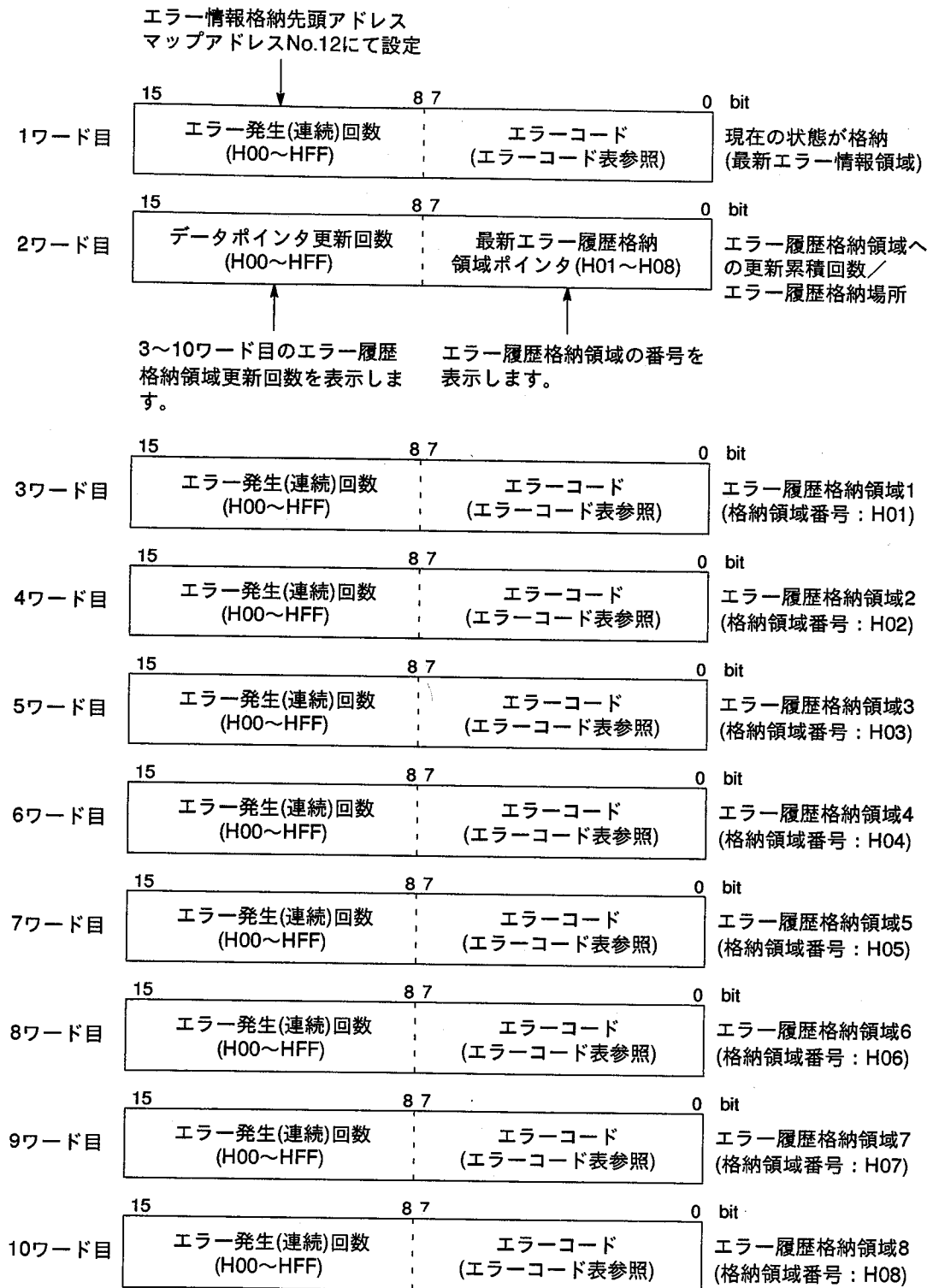
■ エラー情報出力レジスタについて

マップアドレスNo.11~13にて設定されるエラー情報出力レジスタには、自局で発生したエラー内容がエラーコードという形で格納されます。

マップ アドレスNo.	パラメータ	内容												
11	出力先領域コード	エラー情報出力レジスタで使用するリレー／レジスタを指定します。 下表のリレー／レジスタが指定可能です。 <table border="1"><thead><tr><th>リレー／レジスタ</th><th>コード</th></tr></thead><tbody><tr><td>WL</td><td>H0000</td></tr><tr><td>WR</td><td>H0001</td></tr><tr><td>LD</td><td>H0006</td></tr><tr><td>DT</td><td>H0009</td></tr><tr><td>FL</td><td>H000A</td></tr></tbody></table>	リレー／レジスタ	コード	WL	H0000	WR	H0001	LD	H0006	DT	H0009	FL	H000A
リレー／レジスタ	コード													
WL	H0000													
WR	H0001													
LD	H0006													
DT	H0009													
FL	H000A													
12	出力先先頭ワードNo.	使用領域の先頭ワードNo.を指定します。												
13	領域ワード数	領域ワード数をK20固定にします。 (エラーレジスタを未使用とする場合、「K0」としてください)。												

■ エラー情報出力レジスタの構成

エラーレジスタは全部で10ワードを占有し、第1ワード目には現在の状態が、第2ワード目にはエラー履歴情報が、3～10ワード目には最新より過去8回分のエラー履歴が格納されます。



■ 動作説明

● エラーが発生すると、1ワード目の最新エラー情報領域(下位バイト)にエラーコードが格納されます。

- ・1ワード目の最新エラー情報領域に格納された同じエラーコードが連続して発生した場合、エラー発生(連続)回数(上位バイト)の値が(+1)増加されます。

例

2回連続で同じエラーコードが発生した場合、
上位バイトは：H01** → H02**となります。

- ・次に発生したエラーコードが最新エラー情報領域に格納されたエラーコードと異なる場合、1ワード目の内容がエラー履歴格納領域n(下記参照)に転送された後、1ワード目に更新する最新のエラー情報が格納されます。
- ・発生したエラーが解除された時、最新エラー情報領域(下位バイト)に「H**00」が格納されます。

● 過去に発生したエラー情報は8回分までエラー履歴格納領域に記憶が残ります(3~10ワード目に格納されます)。

- ・エラーが非連続で9回以上発生した場合、一番古く格納されたエラー履歴格納領域の内容から順に消去され、その領域に新しいエラー内容が格納されます。
- ・新しくエラー内容が格納されたエラー履歴格納領域の番号(n)は、2ワード目の「最新エラー履歴格納領域ポインタ」(下位バイト)に表示されます。

例

エラー履歴格納領域の格納記憶順は、

格納番号：1,2,3,4,5,6,7,8,1,2,……7,8,1,2,……の順で回ります。

例えば、非連続でエラーが11回発生した場合、11回目の最新エラー情報は1ワード目に格納されます(最新エラー情報は常に1ワード目に格納されます)。先に1ワード目に格納されていた10回目のエラー情報は4ワード目のエラー履歴格納領域2に転送され、上書き格納されます。

よって、2ワード目のエラー情報出力レジスタには「H0A02」が格納されます。

2ワード目エラーレジスタの上位バイト「H0A」はエラー履歴格納領域更新累積回数(一番古いエラーからの累積エラー回数)を表しています。

2.2.2 エラー情報出力レジスタの出力例

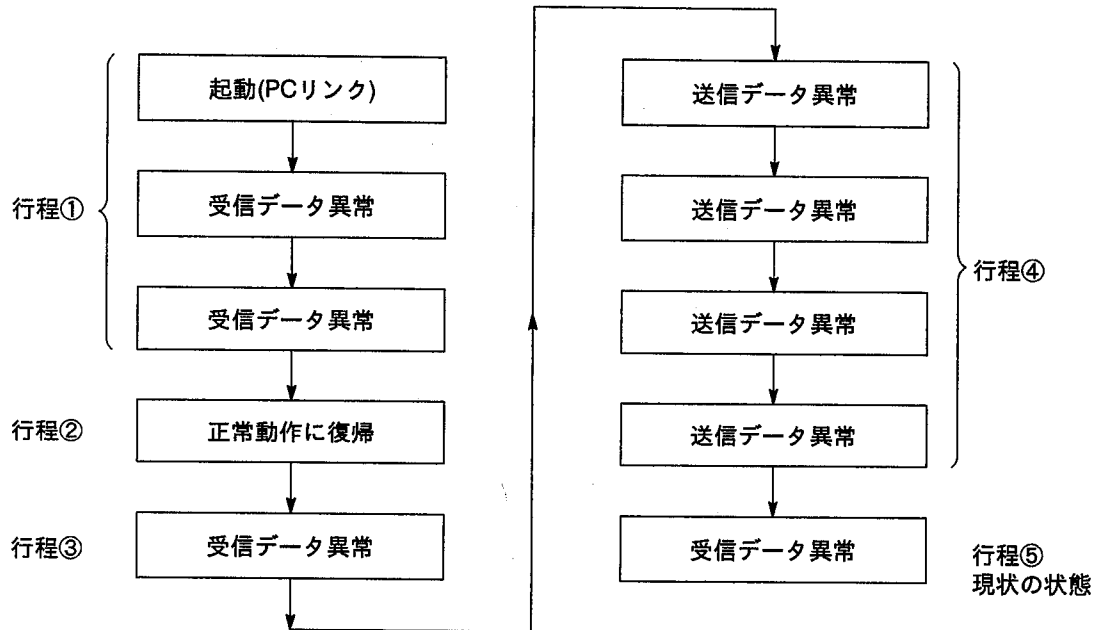
〈パラメータ設定〉

エラー情報レジスタとしてLD0～LD9を割り当てパラメータを設定する。

マップアドレスNo.	パラメータ設定
11	H0006
12	H0000(K0)
13	K20

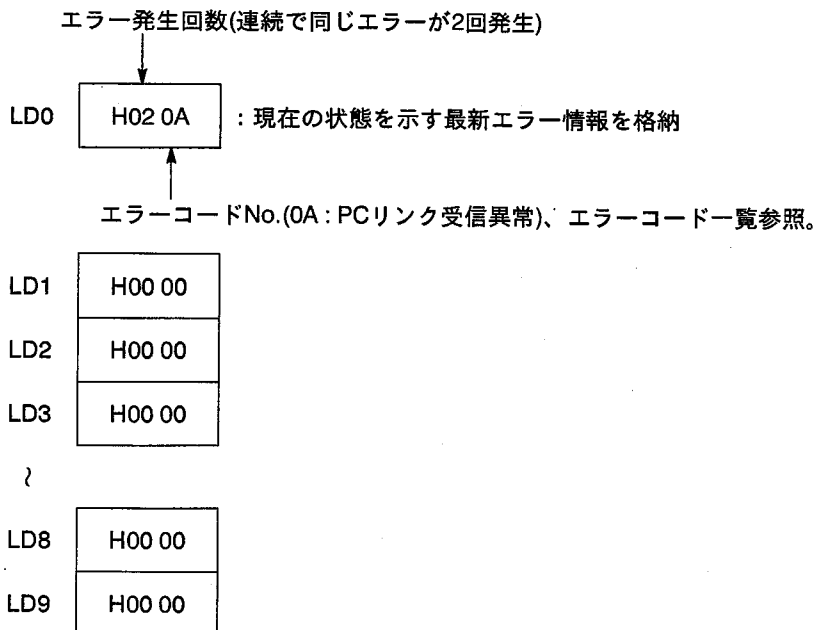
〈出力例〉

以下のような順序でエラーが発生したと仮定します。



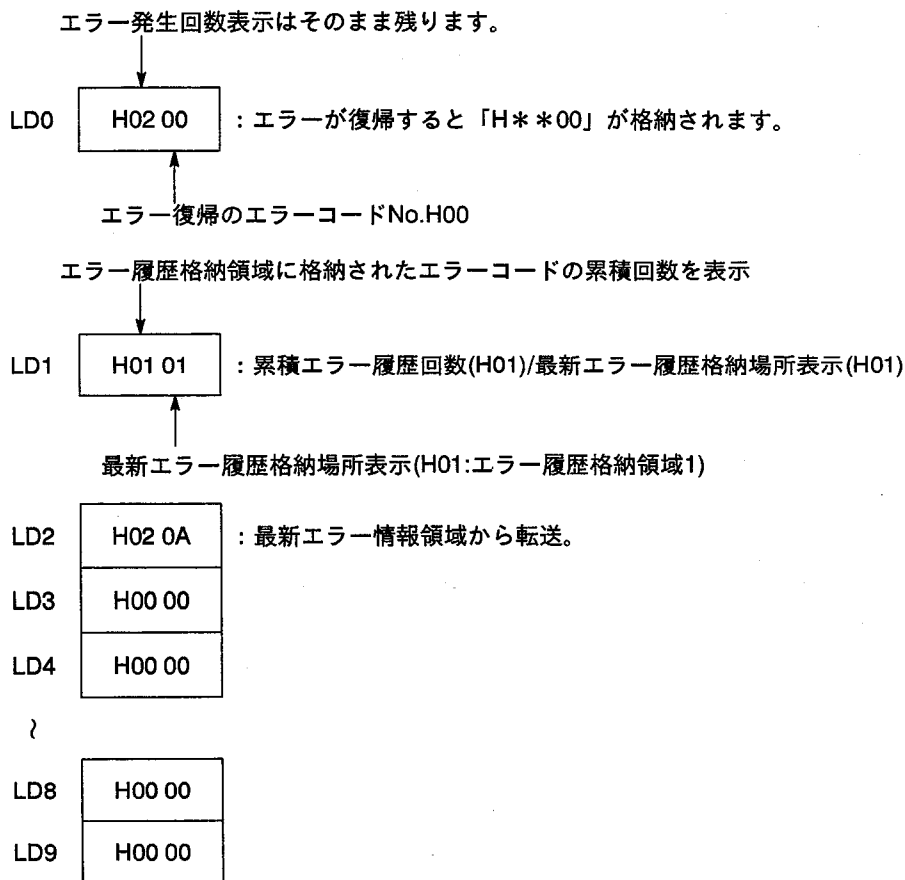
【行程①】

PCリンクが起動し、連続して受信データ異常エラーが発生した時、エラーレジスタLD0～LD9は次のようになります。



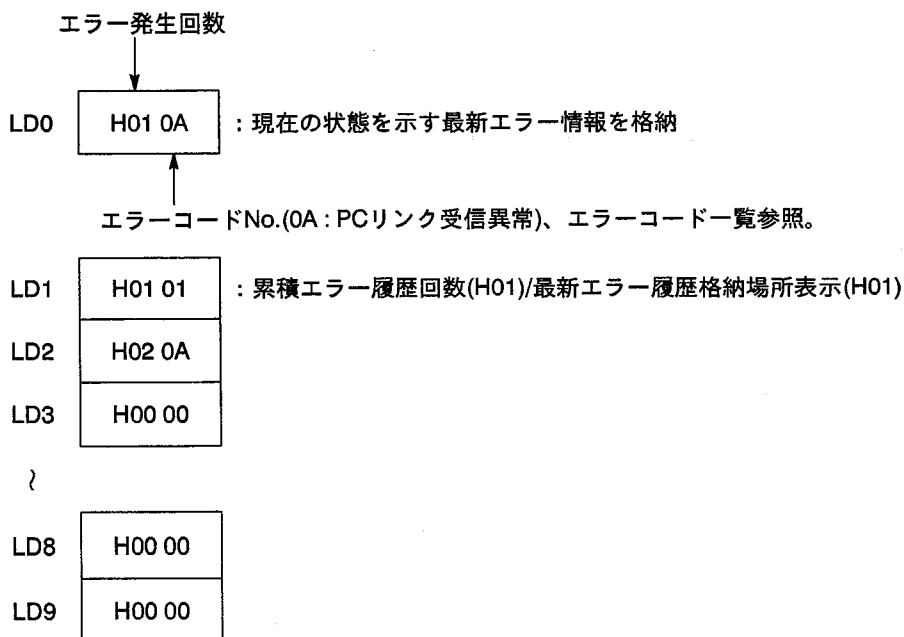
【行程②】

PCリンクが正常動作に復帰した時、エラーレジスタLD0～LD9は次のようになります。



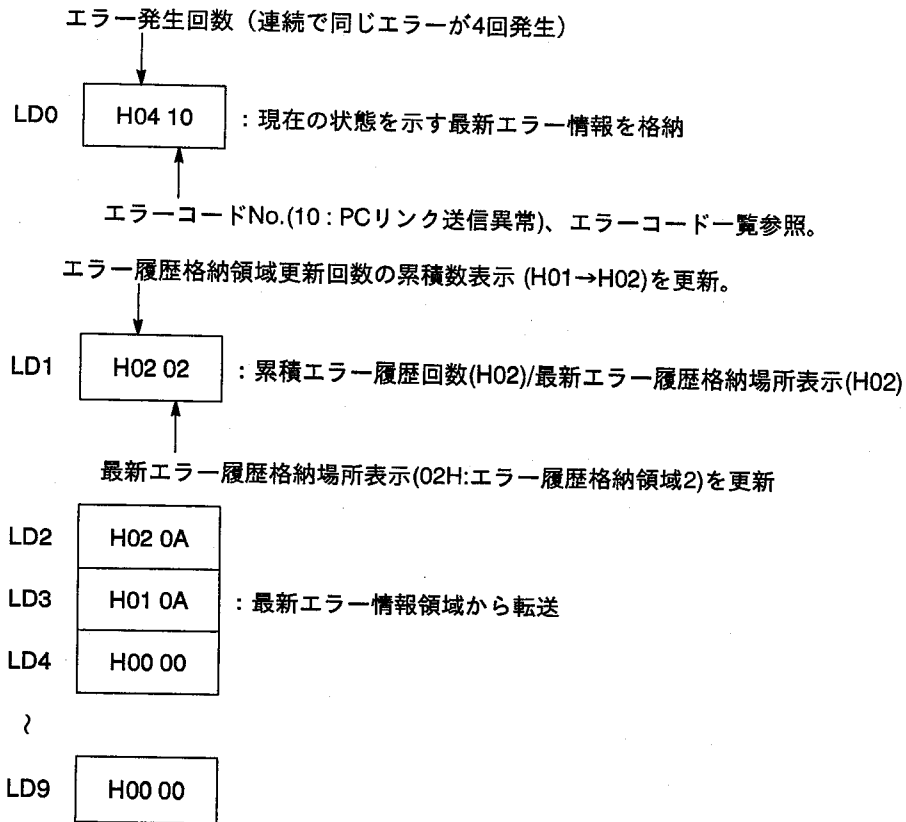
【行程③】

引き続き次に、受信データ異常エラーが発生した時、エラーレジスタLD0～LD9は次のようになります。



【行程④】

次に、4連続で送信データ異常エラーが発生した時、エラーレジスタLD0～LD9は次のようになります。

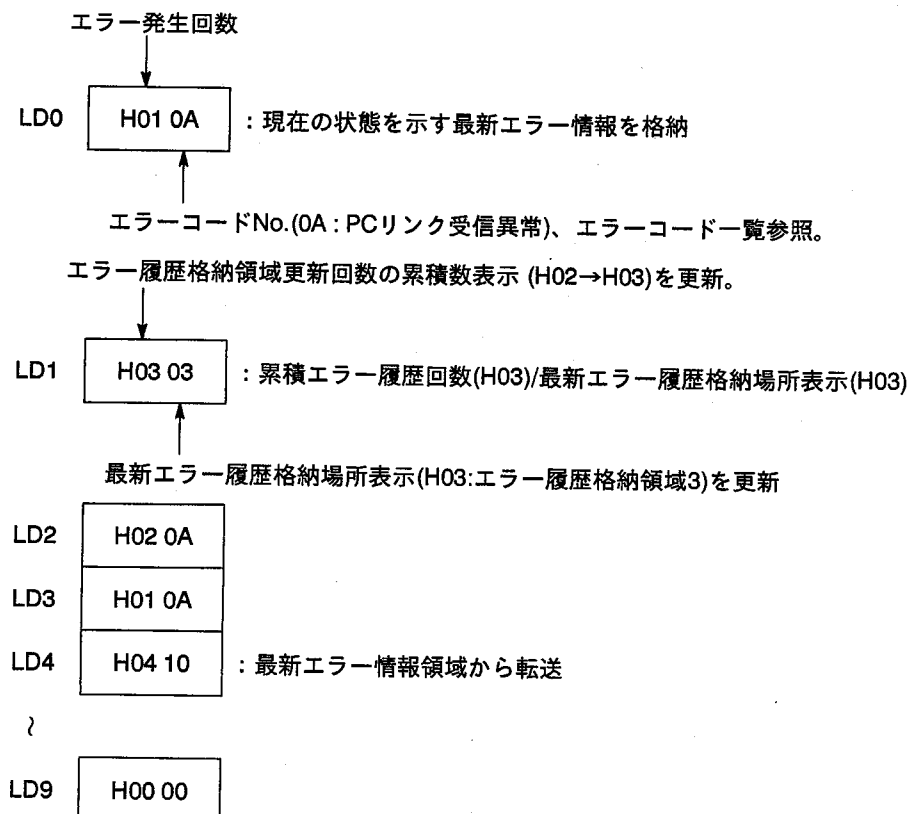


注意：

同一種類のエラーが連続で発生した場合、最新エラー情報領域からエラー履歴格納領域へは移動せずに最新エラー情報領域のエラー発生回数のみ更新されます。
例えば、今回のように4連続で送信データ異常が発生するとエラーレジスタは「H0410」となります。

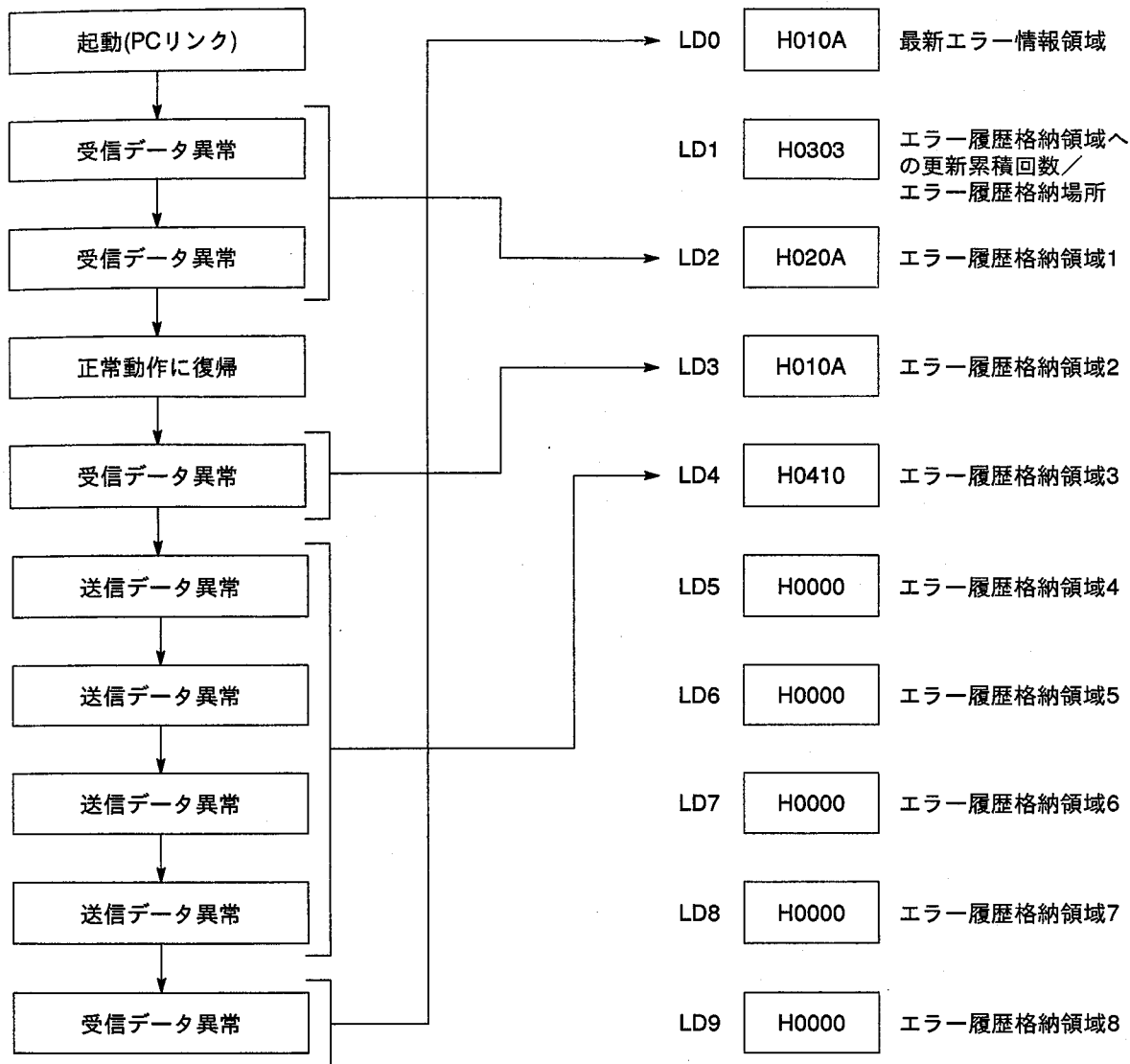
【行程⑤】

次に、再び受信データ異常エラーが発生した時、エラーレジスタLD0～LD9は次のようになります。



[結果]

出力例による行程①～⑤よりLD0～LD9の最終状態は次のようになります。



このエラーレジスタの最新エラー情報領域が格納するエラーコードNo.を調べ(この場合、LD0の下位バイトの値)、2.2.3 エラーコード一覧を参照してエラーを復帰させてください。

2.2.3 エラーコード一覧

コード	エラー名	内容	対策
00	正常	エラーが発生していない状態です	
08	イニシャル起動エラー	FP2 CPUユニットがマルチワイヤリンクユニットに対応していない。	FP2 CPUユニットをVer.1.05以降に交換して下さい。
		W2モードで4台以上のマルチワイヤリンクユニットが装着されています。	W2モード設定のマルチユニットを3台以下にしてください。
		マルチワイヤリンクユニット、基本マザーボードまたは、その他のユニットの不良。	不良ユニットまたは、ボードを調べ、交換してください。
0A	PCリンク受信異常終了	PCリンクにてデータの受信異常が発生。	2.3.5章「PCリンク通信不可時の確認」を参照の上、修正してください。
			エラーが発生する状況のもとでは、ノイズによるデータの破壊などが考えられます。ノイズ対策を施してください。
0B	ユニットNo.の設定異常	ユニットNo.がNo.1~64の範囲外になっている。	ユニットNo.をNo.1~64の範囲内に設定し直してください。
0C	ユニットNo.の重複	ユニットNo.が他局と重複している。	ユニットをリンク内で未使用のNo.かつ、リンクエリア割付されているNo.に変更してください。
0D	パラメータエラー (ユニット検知)	パラメータの設定に誤りがあります。	パラメータ設定プログラムに誤りがないか確認してください。
0E	パラメータエラー (CPU検知)		
10	PCリンク送信異常終了	PCリンクにてデータの送信異常が発生。	2.3.5章「PCリンク通信不可時の確認」を参照の上、修正してください。
			エラーが発生する状況のもとでは、ノイズによるデータの破壊などが考えられます。ノイズ対策を施してください。
11	PCリンクアドレス重複	リンクエリアが他局と重複している。	パラメータ設定プログラムを確認し、重複しない様に変更してください。
12	パケット受信異常終了	パケットが正しく受信できなかった。	ノイズによるデータ破壊
			伝送系路の異常
		受信バッファ以上に連続してメッセージを受信した。	通信ケーブル及び、その取付部を確認してください。
			フロー制御を実施するか、アプリケーションプログラムにて転送能力範囲内で使用してください。
13	PCリンク運転中、PLCパラメータ異常検知	パラメータ設定に誤りがあります。	パラメータ設定プログラムに誤りがないか、確認してください。
15	パケット送信異常終了	送信したいパケットデータが正しくありません(ノイズによる送信データの破壊)。	ノイズ対策を施してください。

2.3 異常時の確認

2.3.1 CPUユニットのERROR LEDが点灯したら

<状況> CPUユニットのERROR LEDが点灯している。

<処理手順1>

全てのユニットが、正しくマザーボードに実装されているか確認してください。

<処理手順2>

電源ユニットのPOWER LEDが点灯しているか確認してください。
点灯していない場合、FP2ハードマニュアル(ARCT1F274)6章を参照してください。

<処理手順3>

CPUユニットのALARM LED、およびERROR LEDが点灯しているか確認してください。

ALARM LED、 ERROR LEDの状況	処理
点灯	FP2ハードマニュアル(ARCT1F274)6章を参照してください。
消灯	CPUユニットがVer.1.05以降であるか確認してください。CPUユニットの側面シールやNPST-GR(ステータス画面)で調べることができます。

2.3.2 使用モードの確認

<処理手順1>

使用モードが目的にあっているか、裏面モード設定スイッチ(2)にて確認してください。

使用モード	確認事項	モード設定スイッチ(2)
MEWNET-Wモード	同一リンク内のユニットが全て、MEWNET-Wモードになっているか確認してください。 MEWNET-Wモードであるにも関わらず直らない場合、MEWNET-W導入マニュアル(FAF-65)トラブルシューティングを参照してください。	No.1 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> No.2 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> OFF ON
MEWNET-W2モード	同一リンク内のユニットが全てMEWNET-W2モードになっているか確認してください。 MEWNET-W2モードであるにも関わらず直らない場合、次項以降の「MEWNET-W2モード使用時の確認」を参照して下さい。	No.1 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> No.2 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> OFF ON
MEWNET-Fモード	同一リンク内のユニットが全てMEWNET-Fモードになっているか確認してください。 MEWNET-Fモードであるにも関わらず直らない場合、MEWNET-F導入マニュアル(FAF-35)トラブルシューティングを参照してください。	No.1 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> No.2 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> OFF ON

注) 1. モード設定スイッチ(2)を設定変更する場合、電源を切った状態で行ってください。

2.3.3 MEWNET-W2使用時の確認

<処理手順1>

マルチワイヤリンクユニットのERR.LEDが点灯／点滅しているか確認してください。
点灯／点滅している場合、「2.3.4 ERR.LED点灯／点滅時の確認」に移動してください。

<処理手順2>

PCリンクモードで使用している場合、モード設定が正しいか確認してください。
モード設定が正しい場合、「2.3.5 PCリンク通信不可時の確認」へ移動してください。

<処理手順3>

通信先の設定が正しいか確認してください。

▶上記確認事項が正しいにも関わらず動作しない場合は、弊社にご連絡ください。

2.3.4 ERR.LED点灯／点滅時の確認

<状況>マルチワイヤリンクユニットのERR.LEDが点灯／点滅している

<処理手順1>

ERR.LEDが点灯している場合、何度か電源をON/OFFしてください。

<処理手順2>

ERR.LEDが点滅している場合、エラーレジスタを確認の上、2.2.3 エラーコード一覧を参照し、対策を行ってください。また、必要であれば状態に合わせ以下処理を行ってください。

ERR.LEDの状態	処理
点滅(約1.0s間隔)	・CPUユニットがVer.1.05以降であることを確認してください。 CPUユニットの側面シールやNPST-GR(ステータス画面)で調べることができます。
点滅(約0.2s間隔)、 かつCOM.LEDが点灯	・パラメータ設定プログラムをチェックし、リンクエリアの割り付けが重複していないか確認してください(リンク内で未使用のNo.で、かつリンクエリア割り付けがされているNo.に変更してください)。 ・パラメータ設定プログラムをチェックし、ユニットNo.が重複していないか確認してください。
点滅(約0.2s間隔)、 COM.LEDは消灯	・ユニットNo.が1～64の範囲内に収まっているか確認し、再起動してください。

▶上記確認事項が正しいにも関わらず動作しない場合は、弊社にご連絡ください。
また、予備のリンクユニットをお持ちの場合、予備のユニットと交換し、動作確認を行ってください。

2.3.5 PCリンク通信不可時の確認

<状況> PCリンク通信できないユニットがある。

<処理手順1>

PCリンクモードで起動しているか、モード設定スイッチ(1)No.1にて確認してください。

<処理手順2>

エラーレジスタを確認の上、2.2.3 エラーコード一覧を参照し、その対策を行ってください。

<処理手順3>

PCリンクを行うユニット全てに、パラメータ設定プログラムが入っているか確認してください。リンク内の全ユニットに対する送信リンクエリアの割り付けを、パラメータ設定プログラムの実行により行ってください。この時全ユニットに対し、パラメータ設定プログラムの実行を行う必要があります(1.2章参照)。

<処理手順4>

パラメータ設定プログラムで、全ての局のリンクエリア割り付けが行われているか確認してください。この時全ユニットに対し、割り付けを行う必要があります(1.2章参照)。

<処理手順5>

リンクエリアの割り付けが重複していないか、パラメータ設定プログラムを確認してください。

<処理手順6>

ユニットNo.が1~64の範囲内に収まっているか確認し、再起動してください。

<処理手順7>

リンク内のユニット総接続数が32局以内か、確認してください。

<処理手順8>

リンク内のユニットの通信速度が500kbps/250kbpsのどちらかに統一されているか、裏面のモード設定スイッチ(2)にて確認し、再起動してください。

▶上記確認事項が正しいにも関わらず、動作しない場合は「2.3.6 伝送異常時の確認」へ移動してください。

2.3.6 伝送異常時の確認

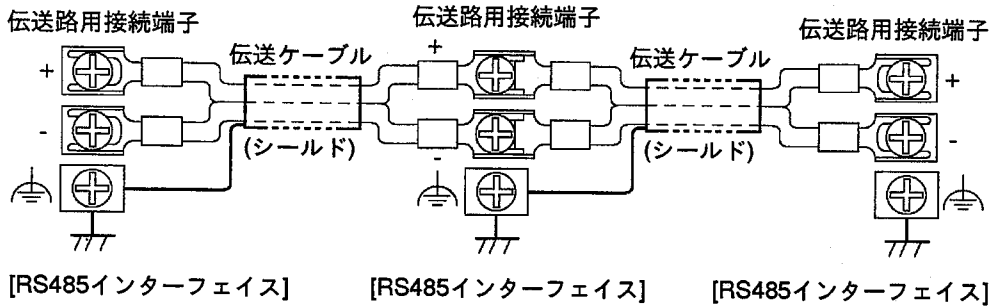
<状況>伝送異常が起きている。

<処理手順1>

エラーレジスタを確認の上、2.2.3 エラーコード一覧を参照し、その対策を行ってください。

<処理手順2>

伝送ケーブルが各ユニットの伝送端子(+)と(+), (-)と(-)に確実に接続されているか確認してください。



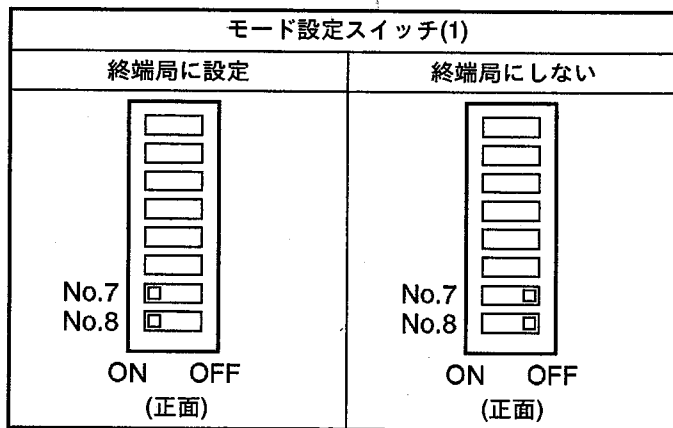
<処理手順3>

伝送ケーブルが仕様範囲内であるか、「FP2マルチワイヤリンクユニットユーザーズマニュアル/1.2.4章」にて確認してください。

この時、同一リンク内のケーブルは複数種類使用せず、一種類に統一してください。

<処理手順4>

ネットワーク両端のユニットが終端局に設定されているか、状態表示LEDおよび正面のモード設定スイッチ(1) No.7/No.8で確認してください。



注意：ネットワーク両端以外のユニットは終端局に設定しないでください。

<処理手順5>

Wリンクモードと併用している場合、Wリンクのリンクエリアと重複していないか確認してください。

<処理手順6>

パラメータ設定プログラムが正しく設定されているか確認してください。

設定プログラムの異常には、例として以下要素などが考えられます。

- ▶設定プログラム完了前にワークエリア領域のDTを使用している(誤ったデータが転送されている)。
- ▶未使用局の送信領域設定パラメータに「HFFFF」ではなく、「H0000」が書き込まれている。